

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272100268		
法人名	堀建設株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩 (けやき棟)		
所在地	鹿足郡津和野町河村506-3		
自己評価作成日	平成27年2月2日	評価結果 市町村受	平成27年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3272100268-00&PrefCd=32&VersionCd=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成27年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

情勢の変化に伴い「求められること」への柔軟な対応に努めている。看取り、急変対応、豪雨時の避難など、いろいろな経験を積み、連携体制が出来ている。また、施設内に環境、防災、研修委員会を設置し、職員全員で質の向上に取り組んでいる。
 家族との繋がりがである家族会は年々、参加家族が増え、26年度は過去最高の31人という嬉しい結果となった。意見交換の大事な場となっている他、本人と家族や親戚との憩いの場所となっている。
 大きな畑を有し、植え付け、収穫など季節を感じて頂いたり、地域行事への参加、故郷訪問などで昔を思い出して頂いたり、折々に活動を行い、入居者の皆様に楽しんで頂いている。入居者の皆様の「笑顔」と共に職員も「笑顔」に・・・と介護ロボットの導入があり、歌、ゲーム、踊り・・・と一緒に活躍している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

25年度には研修委員会、環境委員会を、26年度には防災委員会を設置し、職員一人ひとりが意見を出し合い役割ややりがいを持って活動できる体制を作っている。代表者は利用者も職員も楽しんで生活できるようにと介護ロボットを購入し、ロボットと一緒に体操をしたり歌を歌ったり笑いのある環境作りに努めている。家族会には親戚の人やきょうだいのも多数参加し、利用者と一緒に外出したり、職員も抹茶コーナーや足つぼマッサージコーナーを設けて交流を図り利用者にとっても楽しい時間になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を図りながら、施設においては、その人が出来る事を見つけて、役割として実施することで、にこやかに、穏かにを引き出すことが出来ていると思う。	職員は理念を意識して日々のケアを行い、年度末のスタッフ会議で一人ひとりが1年の振り返りを行い課題などを話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	折々の行事に参加している。また、地域の草刈作業にも参加している。花見の準備に参加している。美土里ネット、小学生と共同芋植え、収穫を実施した。	花見や敬老会、「美土里ネット」と小学生と一緒に取り組む芋植えや収穫に参加するなど、地域の行事や活動を通し交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長の運営推進会議への参加 施設発行の便りを地域回覧として様子を知らせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で現状、活動報告をし、そのことについて、質問、提案などをもらい、スタッフに報告している。	利用者の状況や活動を報告し地域の情報を得たり、災害時の避難場所などについて話し合い、提案や助言を実践に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加してもらい、現状の把握をしてもらっている。日常的に分からない事は問い合わせをしている。	主に運営推進会議で現状や取り組みを伝えている。わからないことはその都度電話で聞き情報や助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に入出入り出来るようにしている。日中は玄関は開放されている。スタッフは身体拘束について研修をおこなった。	研修委員を中心に研修やアンケートを実施し意識の共有化に努めている。職員同士が何でも言い合える雰囲気があり気づいたことは互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ研修にて学ぶ機会をもっている。研修委員によりアンケート実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者はいないがスタッフ研修にて理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結時は十分な時間をもち説明し、現状や不安について理解するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の要望はいつでも受ける体制はあり、日々回答できることは回答している。家族会で意見交換の時間がある。結果はスタッフ間で共有している。	家族会には多数の人が参加し、行事への参加や家族会通信の発行など積極的に意見が出されている。職員は家族会の後に利用者、家族、職員が交流できる場を工夫して設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱が設置されていて、いつでも意見や提案は言える。また、それに関しては回答が掲示される。	管理者は会議や日常の業務の中で意見を聞いたり相談を受けている。代表者に直接伝える「意見箱」を設置し、意見に対しては文書で回答があり掲示している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある職場作りをめざすと共に給与水準の向上を図り職場環境の整備に努めている。介護ロボット、就業年数報酬を導入し職員の楽しみも増やす努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修：実践者研修、リーダー研修の参加がある。個人研修の参加もある、スタッフ研修において施設内研修委員により研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田圏域GH交流会で事例検討 講演会が実施されている。 他施設訪問など 交流の機会はある。他GHより、2名のスタッフの訪問があり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期においては、居宅やかかりつけ医、本人より情報を得ながら、十分に会話し、安心に繋がるよう、努めている。サービス提供時にはスタッフも情報を把握、共有できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には、時間をかけ、状況等傾聴している。その中でどのようにサービスを提供していくか、話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時には、時間をかけ、状況等傾聴している。その中でどのようにサービスを提供していくか、話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人にあった家事をしてもらったりしている。いろいろな場面で参加してもらっている。畑の作業、食器洗い、モップ掛など。入居者から「何かしようか？」と声をかけてくれることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事がある時はご家族にも参加をしてもらうように声かけをして同じ時間を共有してもらえよう努めている。初詣 ドライブの参加があった。各月ごと、近況報告の便りを家族あてに送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で開催される行事に参加している。花見、運動会 ふるさと訪問 など。地元の方が定期的に会いに来ている。面会の方とは居室でゆっくり過ごしてもらっている。	行きつけの散髪屋に行ったり、花見や運動会などの地域行事に参加している。ふるさと訪問や外泊、「ひのき棟」では米寿の祝いに参加できるように送迎の支援をした。定期的に近所の人との訪問のある人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲が良く穏かなので誰かが孤立する事は無いが耳の遠い人は孤立しないように気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援はないが終了しても面会に行ったり、撮影した写真を届けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望や思いの把握に努めサービスの提供を検討している。毎日、風呂に入りたいと希望される方には、出来るだけ意向に沿って入浴してもらっている。	言葉や表情などから思いを知り、困難な場合は家族から聞いている。職員同士が情報を伝え合い支援の仕方をプランに反映させ対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具の持ち込み、新聞を取られている方、仏壇の持ち込みの方、携帯電話所有の方もいる。馴染みの散髪屋に行く方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事を手伝って頂いている。出来る事は本人に任せている。心身状態についてはスタッフ間で引継ぎ共有できている。カンファレンスの実施。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人と家族からは都度、意向を伺い、スタッフ間ではカンファレンス、担当者会議で検討している。	担当者会議やカンファレンスで話し合い利用者の思いを尊重したプランを作成している。毎月居室担当者がモニタリングをし、現状に即した支援をするよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	居室担当だけでなく、気づきは積極的にケース記録に記入しカンファレンスで話し合い計画に活かしている。介護記録 カンファレンス記録 担当者会議記録		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調、心理状況など家族への連絡を密にする様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア来所 フラダンス 舞踊 獅子舞 NPO 美土里ネット、小学生と共同芋植え、収穫 保育園来所 運動会実施 民生委員 障子張替え		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2回/月 往診がある。その他必要があれば受診支援をしている。眼科 皮膚科等 家族による受診希望については柔軟な対応、支援をしている。	かかりつけ医による往診があり、体調変化時や夜間は電話で報告し指示をもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等日常の様子を、日々看護師に報告相談をして、指示を受けている。24時間連絡可能である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供の実施により情報交換に努めている。入院中は面会にも伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については入所時より意向を確認している。状況により家族と都度話し合いをしている。医療機関とも連携は充分に取れている。 25年度 看取り実施	契約時に家族の意向を聞いている。状況変化に合わせてその都度話し合い、家族の希望や協力があれば支援したいと考えている。25年度に看取りを行い家族会で報告して理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習実施 H26年3月 急変時に備えマニュアルや看護師からの指示で確認を繰り返している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、火災訓練の実施 緊急避難場所まで全員参加で避難訓練をした。 緊急連絡網伝達訓練実施 緊急避難持ち出し品保管	今年度から防災委員会を設置し年間計画を立てて取り組んでいる。地域の人や家族の参加もあり、運営推進会議でも避難場所など話し合っている。豪雨時、勧告が出る前に自主避難をするという体験をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人で出来ることはして頂き、難しいことは一緒にしませんか・と声をかけている。排泄介助時の声かけには特に配慮を心掛けている。	女性の入浴中には張り紙をしたり、排泄の声かけは居室への移動の途中にさりげなく行うなど、プライバシーに配慮した対応をしている。職員は声が大きい時は互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	伺いを立てて、返事を聞くように働きかけているが手伝おうか？と聞いてこられる人が多いので、お願いしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前日の過ごし方を確認し起床時間等考慮している。ホールでテレビを見られる方、居室で休まれる方、話しをされる方、好きなように過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自由にして頂いている。難しい方でも選んで頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を切ったり、味付け、盛り付け、食器洗いなどして頂いている。職員と一緒に食事をし様子観察をしながら、会話の場を持っている。	「けやき」ではエプロンをつけ自分から職員に声をかけて食器洗いをする人もあり、できる事は一緒に行っている。「ひのき」は一緒に調理はできないがメニューを紹介したり、食後自分の食器を重ねる人もある。	重度になってもできるだけ食への関心を引き出せるような取り組みを望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を見ながら、少ない時は意識して食事時間外も食べられるものを提供をするようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声をかけ、口腔ケアをしている。理解力に合わせ、出来るところまで支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録によりリズム、パターンの把握は出来ている。スタッフ間で常に話し検討をしている。紙パンツから布パンツに試行の方もおられる。紙おむつ使用者はいない。	排泄パターンを把握し、素振りや時間を見て声をかけトイレで排泄できるように支援している。施設で紙パンツだったが、様子を見て支援する中で布パンツに変わった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に水を飲んで頂いている。便秘時には腹部マッサージ、温めたり自然排便に努めている。適時、看護師の指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決定していない。必要時には早めにも、遅めにも対応出来る。	曜日や時間は決めず、利用者の希望やタイミング、排便状態などを見ながら支援している。家族がこれまで使っていたからとシャンプーを持参し使用している人もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入室時間、起床時間は決まっていない。希望に合わせて何時でも休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解はできている。それによる変化も把握できている。確かめたい時はいつでも、確認ができるようにファイルが見られる。変更の場合は周知できるまで見てもらう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花を生ける、食器を洗う、洗濯物を干す、畳むなど夫々してもらっている。抹茶を点てる、詩吟をするなど生活歴を生かした取り組みもしていく。焼き餅作り、おはぎ作り等得意なこと楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩は自由にしている。家族の面会時には外出もあった。親戚、食事、温泉などに出かけた。折々に花観ドライブや、弁当を持ち道の駅で食べたりした。	「ひのき」は車椅子の人が多く遠出の外出は少ないが散歩や日光浴をしたり、ふるさと訪問、家族と外泊、外食など行っている。「けやき」は散歩やドライブ、道の駅などに出かけたり、ふるさと訪問や家族と外食、温泉に行く人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている方もおられる。道の駅で花を買ったり、おやつを買ったりしているが定期的ではない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をかけることはできる。また、携帯電話を所持している人もいる。荷物が届いたら葉書を書いてもらう様にもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食卓には花を飾り、簾、朝顔の日よけ、炬燵、クリスマスツリー、リースなどで季節感を取り入れている。	季節感や居場所のある環境作りを行い、利用者にわかりやすい場所の表示をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室であったり、ソファであったり、居室であったり自由に思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンス、仏壇、姿見、机、ソファ、など持ち込んでいる。家族と歩行状態など考え相談し配置をしている。家族の写真など飾っている。	タンスやソファ、テーブル、仏壇、化粧品、文具など希望の物を持参してもらい自分で生けた花を飾っている人もいる。家族が写真を貼ったり、毎週訪問して掃除をする人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂、便所などの張り紙をわかり易いようにトイレから便所と文字を替え目線に合わせ高さも変えた。		